

令和5年度 第3回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和6年3月15日（金） 午前10時～正午
場 所： 新潟市万代市民会館 307・308 研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
石原委員、塩沢委員、高橋委員、多田委員、田中委員、永田委員
事務局（男女共同参画課）
石崎課長、竹田課長補佐、三間主査、大塚職員、弦巻職員

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 令和5年度事業報告（11月～3月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（田中委員） 1点目はNo.5「ジェンダーで社会を考える講座」は他と比べるとアンケートの感想が多い。かなり熱い思いを語ってくれていた。何か工夫があったのか、講座自体が参加者を巻き込むようなものがあって自分事として考える工夫があったのか。工夫があるのか、それとも講座自体にヒントがあるのか知りたい。2点目は他の講座が結構、満足度が90%台だが、No.4「男性の生き方講座（定年期）」は70%台だった理由を教えてほしい。3点目はNo.7「再就職支援講座」のアンケート結果で開催時期についてコメントに「午後開催はめずらしくありがたかった」とわざわざ書いてあるが、何か意味があるのか伺いたい。

（大塚職員） アンケートを多く記入いただいて、嬉しく思っていた。1点目のNo.5「ジェンダーで社会を考える講座」のアンケートについては、以前の運営委員会で講座のテーマに関連した質問を聞いてみたらどうかというご意見をいただいたので、それもアンケートに追加し、書いていただいた。それだけ日頃、思うところや、自分の過去のことなどに連鎖して書いていただけたのかなと思う。また、問いかけをあえて広めに書ける質問にしてみた。今回、それほど多くはないが、実際に家で介護する方、保育士の方、実際に自分の職業と生活がケアに結びついている方がいたので、その辺も熱い思いを書いていただけた一因だったのではと思う。

（三間主査） 2点目のNo.4「男性の生き方講座（定年期）」では満足度が普通の方が2人いらっしゃって、参加者が少ないと普通の方がいらっしゃると満足度が低くなる。第2回のボランティア活動について、講師ご自身の活動の話を中心に話していただき、よい取り組みだが、その話に偏ってしまったという感じはした。企画委員の振返りで、一般的なボランティアについての話を深く話をしてもらえばよかったと反省があった。また、第2回のグループワークでこういう講座に参加している人は割とボランティアをしたいという話で盛り上がりつつあり、物足りなかった人もいたのかなというところが、満足度が低かった原因かと思っている。

3点目のNo.7「再就職支援講座」は新潟県女性財団に委託しているので、ア

ンケートの取り方がアルザの取り方と違うため、分かりづらくて申し訳ない。

(高橋委員) No.7「再就職支援講座」の内容はハローワークとかいろいろところで再就職の支援セミナーを行っていると思うが、そのすみ分けや内容の違いは何か考えていたのか。

(竹田補佐) 再就職を希望されている方だけではなく、現在働いている方でもっと違う働き方を考えたい方へ、雇用されるだけではなく、フリーランスや在宅ワークなどいろいろな働き方のヒントや情報を提供している点は、ハローワークなど他の支援セミナーと違うところだと思っている。

(高橋委員) 委託したのはなぜか。

(竹田補佐) 再就職支援セミナーと個別相談会があり、2つとも新潟県女性財団に委託している。セミナーは新潟県が委託し、新潟市は共催しており、個別相談会は新潟市が委託し、新潟県が共催している。もともと新潟市で再就職支援セミナーを単独で行っていたが、新潟県で同じような内容を新潟県女性財団に委託し、初年度は同じ内容を新潟市内の2か所で開催し、参加者の取り合いのような形になってしまったため、今のようにセミナーは新潟県で、個別相談会はセミナーに繋げて新潟市で、共催で開催している。

(石原委員) 実施状況を見ると、全体的に昨年度に比べて募集人数に対する参加者数が充足されている講座が多くて、コロナの5類移行という要素もあるが、関係者と企画委員の方の努力と工夫なのだと思い、数字を眺めていた。特に結果に表れていると思うが、No.5「ジェンダーで社会を考える講座」の「アンコンシャスバイアスとジェンダー」はケアをテーマにして、私も参加したかったと思うくらい非常によく組み立てられた、プログラム、講師、テーマも切り口をすごく工夫していたと思う。アンコンシャスバイアスもそうだがケアということに対しては論文も多く出ており、参加者の反応を見てもやもやしている人が多かったと考えられ、今後の参考が得られるものがあつたのではないかと思う。No.4「男性の生き方講座（定年期）」は今、雇用継続をされる方が圧倒的に多くなっている時代に、そもそも定年前後の男性は何十歳代を指しているのかなというのが正直わからなくて、50歳後半からは、人生のシフトを考える時期ではあるが、もう少し訴え方に工夫があつてもよいのかなと思う。

(塩沢委員) ケアって、何だろうとずっと考えてきた経緯がある。これだけ高齢化社会になると歳を重ねた側の問題というか、高齢女性が単身になってきて、抱えている不安などの話がたくさん伝わってくる。今もNo.4「男性の生き方講座（定年期）」の中で高齢男性が退職するとボランティアというパターン化されたものを感じた。決めつけない方がよい。難しいかもしれないが、高齢化社会になって当事者たちが抱えている課題や今後どんな課題が想像されるのかを問いかけて考えていく、そういう機会がすごく必要だと思う。今回、ジェンダーで社会を考える講座はそういうところがすごくはまったと思う。アルザの機能としては女性の抱えているものをメインにしていくと、男性に結果的にかぶさってくる問題になっていくと思うので、そこを掘り下げてほしい。ジェンダーという言葉を出さないでと言うのは、各論の時代に入ってきていると感じているので、テーマを絞って、通年でもよいし、場面を変えて設定するなどして、問題意識を設定していくとよいのではないかと感じた。

(竹田補佐) 第4次男女共同参画行動計画の目標4の中の「男性の家庭生活・地域活動へ

の参画促進」に沿って目標を設定して企画した。委員がおっしゃるとおり高齢男性はボランティアというところは考えていかなければならないかなと思う。

(多田委員) No.4「男性の生き方講座(定年期)」の学習目標の「身近な問題である身寄りなしの問題を知ること、家族や配偶者との関わり方を見直す機会とする」とあるが、1・2回ともボランティア活動を軸に地域の方との関わり方や自分のできることから発信することを学ぶ機会になっているとアンケートを見ても思うが、「家族や配偶者との関わり方を見直す」ということは読み取ることができなかったので、どちらかというとも第1回になると思うがどんな話をしたか教えてほしい。

(三間主査) 身寄りなし問題というどうしても独居というイメージを抱くが、企画の段階で企画委員が気になっていたことは身寄りなし問題研究会として身寄りなしをどのような定義にしているのかということ、それを講師に打合せの際にお聞きし、必ずしも一人だけが身寄りなしではなく、家族や親戚がいても疎遠な状態で身寄りなしの方がいる。一人では生きていけない状況の中で、実際に身寄りなしで困っている方の事例を聞いて、周りの人、家族との関わりを大切にしてほしいという内容のお話をしていただいた。

(高橋委員) 定年後は一つの区切りで必ずしも生活が変わるわけではなくて、むしろ仕事を1日8時間働くという生活をやめた後の生活をどうしていくか、それが定年後の講座の意味だと思う。ボランティアは会社に勤めた、組織に属した経験がある男性の強みを活かせると思う。本格的に仕事をやめた後の生活を人生の中で生涯にわたって試行錯誤しながら組み立てていくのか、そういうことを「男性の生き方講座(定年期)」のテーマにしていけばよいのではないかなと思う。女性の退職者等についても同じような課題があるのではないかな。

(三間主査) 今回、企画委員は、高橋委員がおっしゃったように仕事をしていて時間がなくなった後に何をしたいかわからないという男性が多くいるので、それをどうしていこうかというきっかけとして、ボランティアに興味がある人がその先に進めるようになるという思いで企画した。何かしたい人にいろいろな情報を提供したいというのが企画委員の思いだった。大きく空いた時間に生きがいを持ってほしい、それも自分よがりではなく周りの人と支え合いながらの関わりをもってほしいという思いでこの企画を立てた。

(塩沢委員) No.10「アルザ de カフェ」は学習目標に「人材を育成する」とあったので、どうだったのかなと思った。アンケートを見ると「グループワークが良かった」などの感想があったので、参加者が自ら発信していく形で、すごくおもしろい良い試みだったと思う。

(永田委員) No.4「男性の生き方講座(定年期)」の第2回の内容は私も少し違和感があったけど何かかなと思ったが、塩沢委員が言われたのでまさしくそれだとわかった。私も定年期なのでボランティアと決めつけられるのは嫌だなと思った。話を聞くと決めつけているわけではなかったとのことだったが、定年期の働いている人がどういう働き方を会社として促していくかという相談を受けることがあるが、年金だけでは暮らしていけないから多様な働き方、フルタイムは無理だけど、少しだけ働く、社会に貢献してお金を得たいというニーズはあると思う。No.7「再就職支援講座」のように柔軟な働き方と併せてボランティアの話すればより妥当だったのかなと思う。計画で男性に対する働きかけの企画はあつ

たと思うが、男女共同参画ということなので男性という形で切り分けてしまうと分断を促すのかなと思うので、できればあまり性別で分けない方がよいのかなと思う。

(2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 担当より事業の報告

(高橋委員) この事業は行政ではなかなか思いつかないことやできないことをするというのが一つの意義ではないかと思う。No.2の創作劇は行政ではできないことだと思うが、No.1の事業の内容を見ると行政ができないようなことはあまりないような気がする。第1回の内容はなかなか行政ではできないとは思いますが、逆に上げる意味があるのかなという気がする。事業の審査をする時には具体的な内容は決まっていなかったと思うが、全般的にもう少し尖った行政ができないような内容だとよかったのではないかと思う。

(三間主査) 運営委員会で審査していただいた内容で事業をしていただくことになったが、評価シートでも委員から公民館事業と違う市民団体ならではの内容にしてほしいというご意見もいただきながら、審査で採択された内容になっている。第1回の参加者から今の女性の状況は過去があつての今なので、女性の歴史的な背景を学ぶことでそれを受け入れているだけではなく、自分たちも声を上げて勝ち取っていく必要があるということも学べてよかったという声もあったので、意義はある講座だと思っている。

(永田委員) No.1の事業の第2回の副題に「脱！おっさん化」と書いてあり、傷つくようなタイトルだと思う。また、他の回の副題が「アンコンシャスバイアス」「違いを認めるって、どういうこと？」で全体としてのバランスが欠けていると思う。おそらく実際の内容はそうではないかもしれないけれど、タイトルの付け方が傷つくような内容だと思う。

(三間主査) 団体からプログラムの提出があつた時に私たちも「脱！おっさん化」という言葉は気になったが、当日、講座ではジェンダーや差別感をなくそうということも表現したかったと確認した。プログラムが提出された時にこちらが確認できていなかったのはよくなかったと思う。今後、気になる所があれば突き詰めてお互いに話し合いながらよい形にできるよう気をつけていきたいと思う。

(塩沢委員) No.1の事業は行政と同じような感じだと思った。市民活動を支援するという視点から考えると、そこまで要求することは酷なのかなと思う。ただ、気になるのはNo.1の事業のアンケート感想を読むことができなかったのは残念だった。

(三間主査) 連続4回講座で最後のアンケートを資料として配付しており、団体が自主的にとった各回の一口感想があるので、そちらをお配りすればより分かりやすかったかなと反省している。たくさん感想をいただいている。

(石原委員) No.1の事業は1回目の挑戦だったことを考えれば、良かったのではと思う。「行政らしさ、民間らしさ」が誇張され過ぎると「男らしさ、女らしさ」といったことを言うのと通じるところがあると思う。自分たちに都合がいい役割を相手に求めるとか、そういった意味であまり民間らしさを言いすぎるのは疑問にも思うので、塩沢委員がおっしゃるとおりこういう風な取り組みが初回あったということで、よかったのではないかと思っている。プログラムを見るとバラバラな感じも受け、全体的に何がしたいのかなという部分はあるが、次回以

降に工夫していただければよいのかなと思う。

(3) アルザフォーラム2023について

(事務局) 担当より事業の報告

(石原委員) ワークショップの中に政党所属の国会議員が講師をされているものがあるが、講師の規定みたいなものは何かあるのか。

(三間主査) ワークショップ参加団体募集の対象要件に「特定の宗教や政治活動に関わらないもの」という一文があり、参加団体を募っている。

(塩沢委員) 女性と政治については、これだけ参画が遅れているので何らかの働きかけが必要だと思っている。公的な施設で行う場合は微妙な問題が入ってくるので、いろいろ越えなければならない壁が多いと感じる。4月から困難な問題を抱える女性への支援の新しい法律が施行になって、それを説明するにあたっては成立に超党派の女性議員団がかなり頑張ったという経緯があるので、政党に属した方を選ばざるを得なくなるのだろうなと思う。微妙なところをかいくぐって、女性の政治参画にも取り組んでほしい。

4 令和6年度主催講座(案)について

(事務局) 担当より主催講座(案)の説明

(高橋委員) 女性の生き方講座について、女性はライフステージによっていろいろな方がいらっしゃるの、女性でも刺さるものが異なるような気がする。この年代の女性、この年代の女性と考えながら講座を企画することはあるか。

(竹田補佐) 企画委員と主にどこの年代の方をターゲットにするかということを考えて企画している。

(高橋委員) 特に高齢の女性の貧困の問題もあるし、女性に限らず、高齢者特有の問題のようなものがあると思うので、企画委員の方が考えられるものだと思うけれども、取り上げていただけたらと思う。

5 その他

(事務局) 新年度の第1回の運営委員会は6月下旬頃の開催を予定している。あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。